

# 宣伝文の構造解析——函数文法的考察

新 田 義 彦

## 1. はじめに

文学作品のような特別な効果を狙う文体や文章は例外として、一般に文や文章は簡潔で意味が明瞭であることが望まれる。特に商業分野で使われる、宣伝広告文や購入勧誘文においては、強い訴求力を持つことが要求される。顧客の心を掴むことが商売の成否に直結するからである。

本論文においては、簡潔明瞭な日本語文に訴求力を装備させる言語生成メカニズムについて検討考察する。文の構文分析においては変形生成文法論 (Transformational Generative Grammar Theory) [奥津 1974] あるいは [郡司 1997] におけるプロダクション・シオンシステム (書き変え規則系) を援用する。また文の意味分析、特に文のもつメッセージ効果 (語用論的意味) の分析には函数文法論 (Functional Grammar Theory) [Y. Nitta 2012a, 2012h, 2012j.] の定式化を援用する。

宣伝文は美文でなければならない。

美しい文を書きたい、読みたいという要求や欲求は時代を超えて広く存在する。美辞麗句を並べただけでは、美文を構成できないことは自明である。古文や漢文、そして小説には美文で構成されているものが少なくない。美文はそうでない平明な文よりも、強く人の心を惹きつける場合が多い。公的な通知文や規則文などのように、文の美しさよりも簡潔さや正確さが重視される文も存在する。

たとえば三島由紀夫の小説「金閣寺」は、美文

で書き上げられた作品として広く知られている。豊富な古典の蘊蓄を縦横に駆使して、漢語を螺鈿のように散りばめて精緻に組み上げた仕器のような仕上がりである。いわゆるハードボイルド調のぶつ切り文体の対極に位置する文体と言ってもよい。本論文では、しかし、これらの美文は研究対象とはしない。

我々が平凡な日常生活でごく自然に触れる「美しい文」について、簡潔性そして省略性という観点から考察する。

日本語文において、簡潔と省略を極限まで追及した文が、「俳句」である。

俳句は、わずか5・7・5文字の短文の中に、世界や宇宙を切り取る (描写する) ことも可能な短文である。そしてこの短文は、他の文や文章を引用したり参照したりしない。5・7・5文字の範囲内で完結した「世界描写、事象描写、思念陳述、など」を達成する。

その故に簡潔美の手本として様々な分野の日本語文に強い影響を与えている。俳句的簡潔美の影響は、欧米の詩文創作にも影響を与えつつある。

このゆえに俳句の文体は、宣伝文のお手本である。

本論文では、下記のような順序で、考察を展開する。

2. 文の統語構造——生成変形文法的な見方
3. 文の意味構造——函数文法的な見方
4. 俳句の持つ訴求力
5. 宣伝文の構成
6. おわりに——結局「宣伝文の効果 (訴求力)」

はどこから生まれるのか、そしてそれは「省略(俳句的の不言、簡潔性)」とどのように関わっているのか、現時点での総括をする。併せて今後の研究方向についても言及する。

## 2. 文の統語構造

古来、本居宣長の時代(1780(享保15年)-1830(享和元年))から国文学、国語学などの主要問題として国語文法(つまり日本語文法論)が、研究されてきた。多くの成果が蓄積されているが、それをいささか乱暴に約言すれば、品詞の分類論、活用形態論、助詞の用法と係り受けの説明、などであり、日本語文全体の構成や生成に関する理論は扱われなかった。

内省的分析という束縛から開放されて、近代科学的な、つまり客観的な言語データによる検証を許す文法論は、戦後、いわゆる四大国語文法論と呼ばれる、山田文法、松下文法、橋本文法、時枝文法として結実した。しかしそれでもなお、松下文法を除くと助詞や助動詞の用法に焦点を当てた局所的な文法論であった。

文全体の構造や構成法を論じる文法論には至っていないので、外国語人に日本語文の構成方法、構成規則を明晰に提示教育できるような形式化には至らなかったように思われる。

ここで少しだけ、橋本進吉の文法論[橋本1934, 1944]に基づく伝統的學校文法論による、日本語文の文節構造を見てみよう。

(1) 私は 本を 読みたい。  
という文は、下記のような文節構造を持つ単文とされる。

文 ← 文節1+文節2+文節3  
文節1 ← 私は  
文節2 ← 本を  
文節3 ← 読みたい

さらに橋本文法論では、文節の平面的な配置関係分析を深化させ、連用従属関係、連体従属関係、対等並列関係など、文節相互の意味的關係にも論

及した。これらの關係は日本語文における「入れ子構造」としても定式化されている。

日本語の基本構成要素を、「文節」つまり「内容語」+「機能語」として捉えるやり方は、今なお健在であり、情報処理、特に自然言語処理の種々の応用プログラムで採用されている。「機能語」とは、助詞、格助詞、副助詞、助動詞、などの概念が複合・融合したものであり、英語文における構文的な位置づけ、助動詞の付与、前置詞(あるいは前置詞相当語句)の付与、などと比較的よく対応することが知られている(たとえば[Nitta 2012e, 2012f]などにも論述がある)。

文の構成への研究的関心が強化されたのは、N.Chomskyの生成文法論に触発されて、英語文における

$S \rightarrow NP + VP$

に対応する日本語の文生成規則を構築する努力(たとえば、奥津敬一郎の「生成日本文法論」[奥津1974])が開始されてからのように思われる。

本研究では生成文法論、句構造論の枠組み、そして最近のGPSG(一般化句構造文法理論)やHPSG(主辞駆動型句構想文法理論)(たとえば[郡司1997])の枠組みは採用せず、素朴に後述のような定式化により、日本文の構文構造(syntax)を定式化する。このような単純素朴な形式化を採用する理由は、日本語文の意味の抽出に力点を置き、省略現象を、構文論としてではなく意味論あるいは語用論として扱うためである。「省略」を、構文要素の欠落として分析する方法では、“文全体の意味”や“省略による含意”を適正に追究することが難しくなる。

構文構造という数学的形式化を基礎に、形式変形操作により省略を説明しようとする、理論的整合性の保持のゆえに、もとの文の実際の意味を離れた「巧妙な制約規則」を導入する必要に迫られることとなる。巧妙な制約は、現代の抽象数学

的文法理論の抱える必要賦課かもしれない。

生成文法論における強力な理論装置である、補文構造、補文標識 (that, wh 詞, to 不定詞, ing, ~こと, ~という), 付加 (adjunct), 移動と痕跡, 下位範疇化の原理, なども, 俳句のような断片文, そしてそれと同形の宣伝文における「省略」の分析には効果が薄い。

さて本論文では, [奥津 1974] のベースルールに準じて, 下記のような古典的書き換え規則 (production) の記法をゆるやかに使いたい。古典的書き換え規則は素朴な言語直観とよく馴染む。

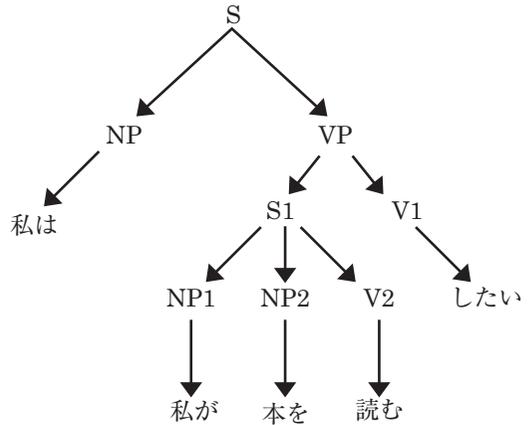
- H → N + F + VP + NP
- F → “Φ”; “や”; “の”; “かな”; …
- VP → N + V
- VP → N + “の” + V
- …

さらに近代の句構造文法理論, 特に変形生成理論を援用する。

(N) 私は 本を 読みたい。

というような日本語文の深層意味構造は, 下記のように分析される [奥津 1974]。

- S ← NP + VP
- NP ← 私は
- VP ← S1 + V1
- V1 ← [したい]
- S1 ← NP1 + NP2 + V2
- NP1 ← 私が
- NP2 ← 本を
- V2 ← 読む



このような, もって回った構造:

私は ( 私が 本を 読む )

は, もどかしく見えることがある。平均的日本人の日常言語感覚とはそぐわないように見えるかもしれない。たとえば, 上記の分析は,

S = NP+VP

VP: 必ず主語 (Subject) として NP を取る必要がある

という欧米文の文法構造に過剰適合しているのではないか。日本語の文には主語 (Subject) の存在は必須要件ではないのだ; という文法観点もあり得る。

私は = 主語 (主体, 動作主体)

本を = 目的語 (対象)

読む = 動詞 (行為)

というような分析で十分と思うかもしれない。

しかしながら,

今日は (私が 本を 読む)

日曜日は ([私が] 本を 読む)

この部屋は (私が 本を 読む) [ところ] なのだ

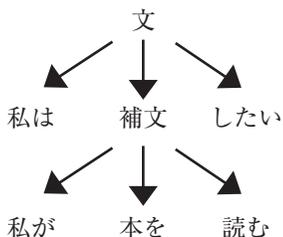
私は + (彼が 本を 読む) + たい →

私は 彼に 本を 読ませ たい

などの構造分析を勘案すると、“私は”という提題部を文法カテゴリとして別途立てて、穂文構造 (compliment structure) を経由して文全体を分析するやり方が有利なように思われる。

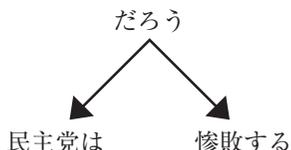
このような「埋め込み文 (補文) 構造」を考え、「たい」つまり「～したい」を、動詞「読む」に密着した欲求・願望の助動詞と見ず、主文の述語 (predicate) としてみることに、そして主文の述語の項 (述語が支配する文法要素) として補文をみる、というやり方には大きな利点がある。補文構造を書き下すと下記ようになる。

文 ← 私は + 補文 + したい  
補文 ← 私が + 本を + 読む



主語が省略されている次の文を取り上げてみよう。

- (3) 民主党は 惨敗する だろう。  
 という文は  
 (4) だろう (民主党は + 惨敗する)

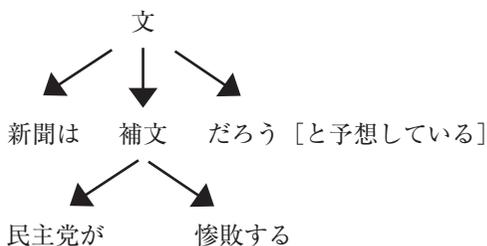


のように分析される。この分析は下記のような省略補完を素直に導出でき、かつ前記の (1) の文法分析と自然に整合する。つまり省略された主語を補完した文

(5) 新聞は 民主党が 惨敗する だろうと予想している。  
 が素直に導出できる。この導出された文の分析は下記のように書ける。

(6) 文 ← 私は / 世間は / 新聞は + (補文) + だろう [と予想している / と思っている].

補文 ← 民主党が + 惨敗する



これまで論述では、副助詞「は」と格助詞「が」の区別には意図的に無関心であったことを断っておく。どちらの助詞も主語を担ぐ機能語として扱った。

「は」と「が」以外の助詞、たとえば「に」、「の」、「で」、なども主語 (Subject) あるいは主格 (Agent) を担ぐ能力を持つことがある (たとえば [徳永 2010] を参照せよ)。

補文構造を導入したことは、文の構文構造の分析に、意味構造を少しだけ持ち込んだことになる。文の主語あるいは動作主が、判断・予想・言及などの知的動作をしたことを、構造的に分析したことになるからである。このような意味が関与する構造分析は、文を単なる文節の集合とみる分析ではできないことであった。しかしながら、

日本語文 ← {文節 [達]}

という単純明快な構文定義にも多くの利点がある。このことは後ほど言及する。

中括弧 { a } による記号式は、要素 a からなる集合という意味である。a は 1 個以上複数個

存在してよい。Bag of  $a$  ( $a$ の入った袋)と俗称されることもある。

“複数の文節”からなる文に、様々な制約規則を課することにより、実際の日本語文を定義(あるいは規定・導出)するというやり方にも多くの利点があると本研究では考える。このやり方は後続の章で取り上げるが、簡単に要点を述べておく。

日本語文 ← {文節 [達]} ただし 制約条件を満たす

が、その定式化であるが、本研究では“文節”の代わりに“核文”を、“制約”の代わりに“メタ文”という概念を使う。核文は、文節における内容語の部分、あるいは単文(単純な命題文)である。メタ文は、助詞の配置や文の配置(つまり補文構造や付加文構造)を統括する規則をメタ記号により規定するものである。

本章の最後に、GPSGやHPSGなどの最近の句構造文法論における、付加文構造(adjunct)の理論的扱い方を[郡司1987]に準拠して見てみる。

S ← 民主党は、国民があまり信用しなくなった。

S ← N + S1

N ← 民主党は

S1 ← 国民があまり信用しなくなった。

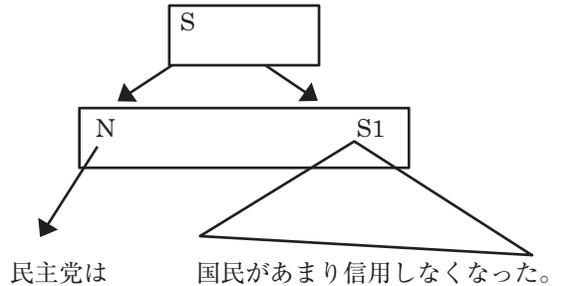
ここで、Nが主題(topic)であり、S1が付加文(adjunct)である。

付加文S1は、もとの完全な文S2から目的語である“民主党を”の部分欠落して穴 $\varepsilon$ (trace)が開いた文として説明される。穴 $\varepsilon$ を開けて抜けた目的語“民主党”は、文頭に移動して主題(topic)の位置を占めている。

S2 ← 国民が 民主党を あまり信用しな

くなった。

S1 ← 国民が  $\varepsilon$  (=民主党を) あまり信用しなくなった。



宣伝文には、

S ← NP+S1

NP: 主題あるいは提題

S1: 付加文

のような構造を持つものが多い。

例文:

- 1) 頑健性は、ブルドーザの基本です。
- 2) おいしいお汁は、xxx屋の蕎麦の魅力です。
- 3) 3時のおやつ [に] は、yyy堂のカステラが一番!
- 4) 納得のお値段の、zzz商店の電気製品。
- 5) dddは、あなただけの世界を創造する。
- 6) eeeの、新しい世界が始まろうとしています!
- 7) 音楽はもっと自由になれる! (デノン オーディオシステム N7seriesの宣伝文(2012-8)より)
- 8) INTEC シリーズアンプには、高いスピーカドライブ能力を誇る VL Digital 技術が採用されているので、・・・(一部句点、カッコを改変。Onkyo Intec のオーディオシステムの宣伝文の一部(2012-5)を抽出)

読者の注意を引く語を文頭に位置づける傾向があり、そのため付加文構造が多用されていると思われる。文頭に置かれる語を担ぐ助詞は、係り助詞や副助詞の代わりに「とりたて詞」(たとえば[茂木2000]を参照せよ)と呼ばれることが多い。

このように最近の句構造文法理論では、文内の構造をその意味的単位の構成と配列に注目して精密化している。意味的構成単位の移動変形の、数学的抽象化そして形式化を極限まで進めると、やがて一般句構造文法論 (GPSG, Generalized Phrase Structure Grammar Theory) や主辞駆動型句構造文法論 (HPSG, Head-driven, Phrase Structure Grammar Theory) に到達する。

これらの理論では、素性の単一可、子から親への素性の伝承、下位範疇化素性の原理 (つまり、親の下位範疇化素性の値は、子の下位範疇化素性の値と単一化する) により、文の意味的構造と表層的構造の対応を、数学的に説明している。

上記は勿論、非常に乱暴な要約である。精密な議論はたとえば [郡司 1997] で展開されている。

### 3. 文の意味構造

関数文法による文の意味の考え方は、次式で表すことができる。

$$H = M (K1, K2, K3)$$

H: 表層文, たとえば俳句文, 宣伝文

M: メタ文

Ki: 核文

M は、文の構成を担うパターンのようなものである。文意のマクロな記述の役割も担う。

通常の文法論と違って、核文  $K_i$  の意味については議論を保留 (棚上げ) しておく。換言すれば、核文  $K_i$  は、意味が自明の単純な命題文、つまり単純な主張を最も単純な形で表現した文である。少々短絡的な説明をすると、従来の文法論における「単語」の位置に、単純自明な命題文を置きこれを「核文」と称するのである。

核文の例を列挙すれば下記のようなになる。

- ・機械が動く
- ・電流が流れる
- ・胃痛が治る
- ・空が青い

- ・車が走る
- ・エンジンが始動する
- ・疲労が回復する
- ・元気が出る
- ・人生が変わる
- ・生きる悦びが沸く
- ・～を発見する
- ・悩みが消滅する
- ・ . . .

核文はほぼ無数にある。核文においては複数の単語の組み合わせが許容される。単語よりもさらにバリエーションがあるので、核文のバリエーションは感覚的には無限である。

核文の個々の意味は分析せず、自明のものとして扱う。宣伝文に出現する核文は、これを収集発掘して核文 DB あるいは核文コーパスなどを構築するべきと思う。

本論文の目的は、宣伝文の意味、特に訴求力に力点を置く意味であるので、核文のもつ自明な命題の意味よりも少しマクロな“訴求”のメカニズムに焦点を絞った意味を扱う。

それではもう少し詳細に意味の取り扱いを見ていこう。核文と核文のつながり、あるいは核文の変形、といったようなマクロな構造の中に訴求力とかかわる意味があると考え、このマクロな構造を記述する文がメタ文  $M()$  である。例を示す。

$K1 =$  “XYZ オーディオシステムは ABC 技術を新利用している”

$K2 =$  “デジタルアンプの利点を引き出す”

$K3 =$  “クラシックを楽しむ”

注意: 文字列を表す引用符 “ ” は他の部分では略記している。次の記述では略した。

$M (K1, K2, K3) =$  クラシックの魅力を堪能できる XYZ オーディオシステム!  
デジタルアンプの実力を存分に引き出す ABC 技術を

開発！

メタ文 M により，“魅力”，“堪能”，“実力”，“開発”，などが導入され，核文が変形されている。このような変形と接続の中に宣伝文の訴求力を強化するメカニズムが埋め込まれている。そしてこの訴求力強化のメカニズムこそが，宣伝文のマクロな意味なのだ，と筆者は主張する。このような訴求力強化をするメタ文を，大量に抽出して宣伝文の [半] 自動生成や作成支援をするシステムの設計は今後の課題である。

#### 4. 俳句の持つ訴求力

まず俳句という超短文の持つ訴求力を，省略（不言，言葉をわざと言わずに切り捨て，読者に考えさせる）という観点から検討してみよう。

俳句における省略の種々相ということは，よく議論される（たとえば [角川学芸出版 2012]）が，実は「省略」という言い方は適当でないかもしれない。俳句文では，実は何も省略していない。不言の語句，あるいは語句の切り捨てをするだけである。切り捨てる部分は：説明，理由，時間（朝昼晩），季節，理由，場所，状況，背景，登場人物，など 多種多様である。

省略の訴求効果は，俳句のような断片文において極大となる

##### 古池や蛙飛びこむ水の音

- K1 = 古池に蛙が飛びこむ
- K2 = 水の音がする
- M = K1 が原因で K2 が結果する
- 省略：だから何なのだ？ 状況，感懐，印象，諦観，悟り，禅の境地，などを不言，切捨て

##### 柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺

- K1 = 私は柿を食う
- K2 = 法隆寺の鐘が鳴る
- M = K1 している時，K2 という事態（事

件）が起きた。

省略 = それはどうした。どういう気分なのか？  
 どういう状況なのか？（言わずとも知れるが）

明治 28 年 10 月，子規は奈良法隆寺を訪れ境内の茶店で柿を食べていた。すると鐘楼から鐘の音が聞こえてきた。

平明そのものの句であるが，・・・秋の境内の清澄な佇まい，柿の赤，鐘の音の乾いた荘厳を，省略（不言及）しているにもかかわらず，活写している。

##### 寒鯉を見て雲水の去りゆけり

- 森 澄雄
- K1 = 行脚僧が寒鯉を見る
- K2 = 行脚僧が去っていく
- M = K1 そして（その後で）K2，

あるいは

K1 が原因・理由（= 行脚僧は何かを悟り）K2

- 省略：K2 の理由，この句の作者の感懐，全体の状況。寒鯉の寂寞（まく）と雲水の孤影を髣髴させる [大野林火 入門歳時記 角川（1984）]

##### 花冷えのちがふ乳房に逢ひにゆく

- 眞鍋呉夫
- K1 = 花冷え（桜が咲いたが寒い）
- K2 = 私は別の女に逢いにゆく
- m（“乳房”）= “女”，“愛人”
- 省略 = 理由，気分（罪悪感と期待感（?）），状況，全体的に暗い倦怠感，など
- M（K1, K2）= K1 の頃，K2 という事象（行動）が発生した

##### びしょぬれの K が還ってきた月夜

- 眞鍋呉夫（「雪女」）
- K1 = K さんはびしょぬれである
- K2 = K さんが還ってきた
- K3 = 月夜の晩

- M () = K1 の状態で K2 した, 時は K3 である

省略: 状況と理由, 一体これはどうしたことなのか?

(K は戦死者でその魂魄が, 三途の川からびしょぬれになって還ってきたのかもしれない)

#### 約束の蛍になって来たといふ

- 眞鍋呉夫 (「月魄」)
- K1 = 約束したこと
- K2 = X さんは蛍に変身した
- K3 = X さんが来た
- M = K2 してから K3 したが, これは K1 である
- 省略 (不言): X さん (主体, 主人公), X の行動の原因と理由, 全体の状況, 事態,
- 戦死者の御霊の帰還か. cf. 菊花の契り

#### 眼をあけて眠るいろくず去年 (こぞ) 今年

- 眞鍋呉夫
- K1 = 魚が眼を開けて眠っている
- K2 = 去年から今年の時の流れ, 新年
- M = K2 の時, K1 という事象 (事件) が起きた
- M (“いろくず”) = “鱗”, “魚”
- 省略: 状況, 理由, 心情, 感懐, などすべて不言. 魚が眼を開けて眠っているのを見ている私も不言. そして K1 を見ると, なぜ私にとって新年が顕在化 (印象深く) なるのかも不言. しかし 読者は共感 / 理解できる

#### 生御魂 (いきみたま) 青蚊帳ぐるみ透きたまふ

- 眞鍋呉夫
- K1 = 生霊が透き通っている
- K2 = 青蚊帳も (もろとも) 透き通っている

- 省略: 全体状況, 場所, 時期, 観察者の感懐, 理由.

- (読者はどのような状況を想起するだろうか?)

#### 雪女抱けば吹雪の音がして

- 眞鍋呉夫
- K1 = 私は雪女を抱く
- K2 = 吹雪の音がする
- M = K1 が原因 / 理由で K2
- 省略 = 全体状況, 句の表層的意味は直裁に理解できる. しかし本当は何を言いたいのか? 不明

#### 密会の窓より高し梅雨の駅

- 眞鍋呉夫
- K1 = 私は X 女と密会している
- K2 = (宿泊しているホテルの) 窓よりも駅が高いところにある
- K3 = 梅雨時である
- M = K1 そして K2 に気づいた, 時は K3
- 省略 (不言): なぜ駅の高さが気になるのか? 全体的心情. 状況.

#### 一夜鮎何度寝返りしたことか

- 眞鍋呉夫
- K1 = [私は] 一夜鮎 [を食べた / 作った]
- K2 = [私は] 何度も寝返りをした (よく寝付けなかった)
- 省略 = 全体的状況, なぜ一夜鮎を食べた / 作った 私は熟睡出来なかったのか? 一夜鮎は消化が悪いのか? それとも…?

#### われもまた瞼 (まぶた) 一重や風鶴忌

- 上記は, 藤田湘子 (58 歳とき) の句
- 註: 1969 (昭和 44) 年 11 月 21 日, 石田波郷 没. 戒名は風鶴 (ふうかく) 院波

### 郷居士

- cf. 霜柱俳句は切字響きけり 波郷
- 省略 = 我を省略せず前面に出しているの  
で、自己愛とプライドの高い人の句  
と言われる [俳句 2012 年 12 月号  
「省略」の極意, 角川学芸出版] 波  
郷と肩を並べたいという湘子の強い  
意志を韜晦している

### 天の川露台にのこる椅子二つ

- 竹久夢二
- M ( ) や Ki の記述は略.
- 省略 (不言) : 全体的状況. 天の川や残さ  
れた二つの椅子が, なぜ作  
者の心を惹きつけるのか,  
その理由も不言. 不言のゆ  
えにこの句は美しい.
- 答え : 最愛の女性笠井彦乃は 23 歳で死去  
(結核). 夢二 35 歳のとき, 美しい  
銀河を椅子に座って二人でみたが,  
もう彼女はいない.
- m (“椅子 2 つが残る”) = 二人揃って座る  
ことはない. 死  
別.

### 庭石にぬれてちる灯や星まつり

- 夢二句集より
- K1 = [客を迎える打ち水に料亭の] 庭石  
が濡れている.
- K2 = 濡れた庭石に [料亭の] 灯火が星を  
散らしたように光っている.
- K3 = [今宵は] 星祭 (=七夕)
- 省略 = 状況. このようなセンチメンタルな  
観察をする理由.
- 答え : 今は亡き彦乃に逢いたい. 天の川の  
兩岸の牽牛星と織女星の相会のように.

### なまなまと白紙の遺髪秋の風

- 飯田蛇笏
- 省略 = 戦死した長男長田聡一郎の短い生  
涯 (ライフコース). 省略というよ  
り, 「白紙に載せられた遺髪」に託  
して不言, というべき.
- 秋の風が, 父蛇笏の悲嘆を一層深化させ  
る.
- [角川 俳句 2012 年 12 月号 より]

### 死ぬときは箸を置くやうに草の花

- 小川軽舟
- 省略 (不言) : このようなことを言う意味  
や真意.
- “箸を置くように”とはどういうことか?  
そしてそれは“草の花”とどう関わるの  
か? すべて不言, 謎である.
- 謎解き : 草の花のように無名の人として生  
涯を終えてもよい. 食事を終えて  
箸を置くように満足して死ぬたら  
よい. *ibid.*

次章では俳句文と同型の簡潔表現をしている宣  
伝文を取り上げる. そしてその訴求効果を考察す  
る.

## 5. 宣伝文の構成

効果的な宣伝文においては, 省略による示唆が  
多用される.

まず日本語文全般における「省略」について考  
えてみよう.

実際の言語使用の場において省略の無い日本語  
文が使われることは稀有である. 省略表現は日本  
語文の特徴と言っても過言ではない. 早速実例を  
挙げる.

- (1) 角を曲がるとラーメン屋だ.
- (2) 僕はウナギだ.
- (3) 春は曙.
- (4) 寒い夜は熱燗がいい.

(5) \*まもなく発車となります。

(6) 古池や蛙飛び込む水の音

注：(5) は駅のアナウンスにおける間違った日本語文の典型例。正しくは“まもなく発車します。”

上記の日本語文に対応する「省略のない標準日本語文（日本語文の正規形）」というようなものは存在しない。常識的に意味を補完すると下記のような解釈文が得られる。もちろんその他の解釈も多数存在する。解釈は文使用の環境、文脈、状況、前提、背景などに大きく依存するからである。

(1a) あなたが角を曲がると、ラーメン屋があるの分かるでしょう。

(2a) 僕はウナギを注文する。

(3a) 春のすばらしさは曙を味わうと分かる。

(4a) 寒い夜には熱燗で一杯やりたいものだ。

(5a) まもなくこの電車は発車します。

(6a) 古池の静けさが、蛙が池に飛び込む音により強調された。

(注意：いうまでもなく 俳句の文を補完した正規な文などは存在せず、省略された簡潔な詩文として完結しているのであるが、ここでは敢えて形式的な解釈文を省略補完の例として提示した)

要するにわれわれは日常生活において、省略のある日本語文を発行したり受理したりする。受理した際にはごく当然のこととして省略を補完して解釈する。また省略文を発行する際には脳内には省略部分のないメッセージ文が生起している。省略文の発行者と受理者の間で解釈が完全に一致することは稀有であるが、大きく食い違うことも稀である。その故に日常生活における発話行為や作文行為は支障なく進行する。ごくたまに大きな解釈の差異が発生することがあるが、その場合には誤解・争議・喧嘩・悲劇・失敗・騒動などの「のぞましくない事態」に陥ることがある。このゆえに規則・規約・契約・法律などでは、不自然にくどすぎると感じられるような日本語文、もったい

ぶったような日本語文、もって回ったような日本語文が、しばしば使用される。

文における省略は、受け手の補完的解釈を想定・期待して行われる。この補完作用のゆえに、日常会話の効率性が向上する。読み手や聞き手に要求される省略の質と量が適正である場合には、文の理解のしやすさ、そして心地よさのような美的効果も発現する。

省略の訴求効果は、俳句のような断片文において極大となる。したがって宣伝文では積極的にあるいは無意識的に多用される。

省略表現が訴求力を強化することの理由を述べる。宣伝文の持つ訴求効果とは、

1) 強く読み手の心を惹きつけること

2) 多くの人に共感・共鳴されること

である。俳句を典型例とする簡潔な文では、多くが語られていない。述べていることの背景、前提、理由、帰結、時間と空間などが、不言である。その故に、個々の読み手が、自分の置かれている状態・境遇・時空に合わせた解釈（読み）をする自由度が最大限に与えられる。この状況は単純な模様のネクタイが、多様なワイシャツと上着に適合すること、単純な形のジグソーパズルの断片が、どこにでも当てはまりそうに見えること、などと似ていると言ってもよいかもしれない。

[奥山 1988] は、「広告の言葉」に関するすぐれたエッセイであるが、同氏もまた語りすぎた宣伝広告文が興ざめであること、宣伝効果や訴求力を低下させることを、自身の体験や感想と共に述べている。つまり春爛漫そのもの（“背景一面は絵の具を流したような満開の桜”）の写真に、さらに大活字で「春爛漫」と書いてある清酒の宣伝ポスターが、興ざめであることを指摘している。このポスターの前景には、“着物美人が盃を口に付けようとして微笑んでいる”。そして下段には当該の清酒の銘柄名が同じく大活字で書いてある。春爛漫の文字がなく、かつ清酒の銘柄名の活

字が控えめであれば、宣伝効果（このポスターの訴求力）が極大になったであろうと筆者は思う。個の例は、文だけではなく、絵や写真も加担するが、省略や簡潔性の原則は強く生きている。

さらに〔奥山 1988〕は、ビール製造販売業界の「ドライ」販売競争（1988年当時）における広告文の極端な類似性を指摘している。同氏のエッセイから引用する：

- 1) 「飲むほどに DRY 辛口。生——この味が、ビールの流れを変えようとしている。」（アサヒスーパードライの宣伝文）
- 2) 「新発酵度、採用。キリッとしまっ、飲み口ドライ。」（キリンドライの宣伝文）
- 3) 「サッポロドライだ、さらりと切れる。ドライ発酵 D<sub>7</sub> がこのうまさを生んだ。」（サッポロドライの宣伝文）
- 4) 「キレイ味極めた、高発酵辛口の生ビール。サントリードライ、新発売。」（サントリードライの宣伝文）

4社とも簡潔にキーワードを接続して訴求力を持つ宣伝文を構成している。その結果として4社とも極めて類似性の高い宣伝文になってしまった。銘柄名を隠してしまえば、4つの宣伝文は4つの銘柄のいずれにも適用可能である。

奥山氏は、4つの宣伝文から、一句ずつ摘出してつなぎ合わせると、「辛口で、キリッとしまっ、さらりと切れて、高発酵」という汎用のドライビールの宣伝文が構成できることを揶揄するように指摘している。同氏の揶揄は、宣伝文やキャッチコピーの持つ訴求力が、陳腐な脆弱性と裏腹の関係にあることを指摘しているとも解せる。

次に宣伝文のタイプの種々相について触れる。

#### 1) 勧誘・問いかけ型

・・・しませんか？

あなたなら・・・しますか？

こんなときどうしますか？ そこで・・・の登場です。

どうして・・・するのですか？・・・を使い感嘆（解決）です。

・・・しましょう。

・・・を使ってみませんか？

あなただけに教えます・・・を。

#### 2) 強調語利用型

～の発見！

～の革命！

～の脅威！

～の宝庫！

～の勝利！

～の救済！

～の責任！

～の〔完全〕解決！

～の秘訣・秘密！

#### 3) 実績提示型

多くの人が～を利用しています。

多数の大学・職場・会社が～を採用〔利用〕しています。

これで納得。～はすばらしい。

#### 4) 効果提示型

まったく新しい～。

最新の技術により・・・

世界初の・・・

・・・にうってつけの～

・・・を大幅に上回る〔増加する・増大する・低下させる・拡大する etc.〕～

・・・を可能とする～

・・・がスッキリ分かる

#### 5) 可用性提示型

この値段で・・・できる～

・・・がはじめて可能になる～

・・・にも使える

・・・がくっきり

様々な場面で活躍する〔活用される〕～

・・・にも対応できる～

今までの議論では、宣伝広告文の特質として、簡潔性そして冗長性の削除（省略）をクローズアップして扱ってきた。そのほかの特質としては、たとえば [JUGEM 2013] は、下記のようなものを挙げている。

- 1) 市場に対する商品の適応性
- 2) 宣伝したい商品のビックポイント
- 3) ターゲットとなる消費者の性格・特徴
- 4) 一般環境の特性
- 5) 過去のデータ

等々

また、広告宣伝文の具体的な留意点とポイントとしては、下記のことを挙げている。[原文に忠実に引用する]

- 1) 明瞭で的確な表現を徹する、回りくどくもってまわったような表現は広告を見た人を引きつけない。
- 2) 聞きやすく、話しやすい言葉遣いにする。
- 3) あくまでも客観的な立場で文書を書く。
- 4) 商品の特徴をしっかり強調する。
- 5) 広告全体が一定の方向で統一されていること、イラストだけが強調されたり、宣伝文だけが目立ってもダメで、それぞれがバランスよく配置されるのが望ましい。

「引用終わり」

(株)ダイヤモンド社 2011a

週間ダイヤモンド2誌および(株)ダイヤモンド 2011b などから、採択した宣伝文の例とその函数文法的分析、特にメタ文と核文の構成例を以下に示す。俳句の簡潔性との類似が読み取れるかもしれない。

- 1) 夢を叶えるときが、来た。 マールボロゴールドが、あなたの熱い想いをカタチにします。

K = 夢

M (K) = K を叶える | K を実現する | K

を具体化する | K を形にする・・・

M (“夢”) ≡ M (“想い”) ≡ M (“理想”) ≡ M (“憧れ”) = ……

- 2) 商社の正体, 「商社」の不思議, 「成長」の秘密, 「儲け」の秘密, 「活力」の秘密, 「人気」の秘密,

K = 商社

M (K) = K の秘密, K の正体, K の魅力, K の活力, ……

- 3) M (K) = K して効率化,

- 4) M (K) = 止まらない K

- 5) M (K1,K2) = K1 が極秘裏に進める K2 という奇貨

- 6) M (K) = K から, 開放されました. K = 厚塗り (泥炭石という洗顔用化粧品)の宣伝文, 株式会社ペリカン石鹸)

- 7) M (K) = K の責任. K = 700 兆円.

- 8) M (K) = K を守るチカラです. K = 700 兆円に及ぶ投資家の資産. (株式会社証券保管代替機構の宣伝文)

- 9) M (K) = 堅固で過酷に耐える K, K = シーレンというドライビングウォッチ

M (K) = 画期的な K です, K = 蓄光性夜光顔料 (株式会社サン・フレームの宣伝より)

- 10) M (K1,K2) = K1,K2 K1 = この男, K2 = ロゼッタ人

M (K) = 自然で直感的な K, K = プログラム

M (K1,K2) = K1 との K2, K1 = ネイティブ, K2 = ライブ会話

M (K1,K2) = K1 で楽しく K2, K1 = オンラインゲーム, K2 = ラ復習

M (K) = K をサポート, K = あなたの目標達成

(ロゼッタストーンという英会話訓練プログラムの CD の宣伝)

以下, M ( ) や K という超記号を省略する。

- 11) あなたにもできる～を賢く～させる～を公開.
- 12) ～は～を使うと～しやすいと好評です.
- 13) ～と～を手にとって試してください.
- 14) ～を～で使えるから～の必需品.
- 15) ～も～. ～=筆記具, 自分流

(以上 11) から 15) まで, 多色ボールペンの宣伝文. 三菱鉛筆株式会社)

## 6. おわりに

宣伝文 P は本質的に断片文である. そのため標準的な文法理論における, 構文生成の理論装置はあまり効果を発揮しない. はじめから P を, 核文 K の集合と見做し, 核文の間の関係をメタ文 M として分析する努力をしたが, 本論文の段階ではこの分析は未完である.

省略をしない文は, その美質が低下し訴求力が弱化すること, したがって効果的な宣伝文にはならないことは示せた.

言語的訴求力の基準や評価尺度は, 今後の研究課題である. またどのように省略をするのか, 定式化・形式化することは, さらに先の課題である.

宣伝文 P 全体の意味記述を, メタ文 M と核文 K でどのように分担しているのか. そして核文 K が宣伝文 P 全体の意味に対して, どのように意味記述分担をするのか, なども今後の課題である.

特に核文 K が, 述部を持たずに単独の名詞 (たとえばキーワード) となる場合に, どのような意味記述分担をしているのか検討することが, 直近の課題である.

(日本大学経済学部教授)

## 参考文献

- 奥津敬一郎 (1974) 『生成日本文法論』大修館書店.
- 奥山益朗 (1988) 「広告の言葉雑感」明治書院『日本語学』Vol.7,4月号, pp.8-11.
- 角川学芸出版 (2012) 『角川俳句——「省略」の極意』角川学芸出版.
- 角川学芸出版 (2013a) 『角川俳句——新年の季語』

- 角川学芸出版.
- 角川学芸出版 (2013b) 『角川俳句——俳句は「瞬間」を詠む』角川学芸出版.
- ぎょうせい (2010) 『国文学 - 解釈と鑑賞』第 73 卷, 7号.
- 倉坂鬼一郎 (2012) 『怖い俳句幻冬舎新書 260』幻冬舎.
- 郡司隆男 (1997) 『自然言語の文法理論』産業図書.
- 佐良木 昌 新田義彦 (2007) 「シテ形用言連接句の対訳データ構築と日英機械翻訳の訳質改善」『言語処理学会論文集』NL2007, C1-3.
- 『正規表現とテキスト・マイニング (増補 2 刷)』明石書店.
- 佐竹昭広 (1986) 『古語雑談, 岩波新書 350』岩波書店.
- JUGEM (2013) 『広告宣伝文の書き方』<http://bijine-subun.jugem.jp/?cid=38>
- 大修館書店 (2002) 特集「文法の誕生, 文法の探求」大修館書店『月刊 言語』Vol.31, No.4.
- (株)ダイヤモンド社 (2011a) 『週間ダイヤモンド 2011-9-17号』(株)ダイヤモンド社.
- (2011b) 『週間ダイヤモンド 2011-10-8号』(株)ダイヤモンド社.
- 徳永哲矢 (2010) 「文の分析と主語——「主語」を問う視点」『国文学 - 解釈と鑑賞』第 73 卷, 7号, pp.40-49.
- 新田義彦 (2007) 「文意の論理表現 (Representing Sentential Semantics in Logic)」日本大学経済学部『経済集志』Vol.77, No.3, pp.21-52.
- (2008a) 「言語産業を支える基礎技術の展望 (A View of Basic Technologies for Language Industry)」日本大学経済学部『産業経営研究』第 30 号, pp.57-69.
- (2011a) 「不完全な機械翻訳の利用法と課題 (The Utility and Problem of Insufficient Machine Translation)」日本大学経済学部『経済集志』Vol.80, No.4, pp.1-54.
- (2011b) 「サイバースペースにおける自我と新産業 (On Self-consciousness and New Business in Cyber-space)」日本大学経済学部『産業経営研究』

- No.33.
- (2011c) 「対訳アラインメントの効用の検討 (A Study on the Utility of Bilingual Alignment)」 日本大学経済学部『経済集志』 Vol.81, No.1, pp.1-38.
- (2011d) 「函数型文法による詩文の解釈 (An Interpretation of Poetic Sentences by Functional Grammar)」 日本大学経済学部『経済集志』 Vol.81, No.3, pp.1-13.
- (2012a) 「函数型文法による単文の変形 (Transformation of Simple Sentence using a Functional Grammar)」 日本大学経済学部『経済集志』 Vol.81, No.4, pp.1-29.
- (2012b) 「俳句の意味の形式的解釈の試み (An Essay on a Formal Interpretation of HAIKU), A-13-5」 『思考と言語セッション』 電子情報通信学会, 2012 総合大会 (岡山大学) 講演論文集.
- (2012c) 「機械翻訳の原理と活用法——古典的機械翻訳再評価の試み」 明石書店.
- (2012d) 「日本型言語産業としての詩文作成支援システムの検討 (A Study on a Poetic Sentence Composition Support System as a Typical Product of Japanese Language Industry)」 日本大学経済学部『産業経営研究』 第34号, No.4, pp.1-19.
- 橋本進吉 (1934) 『国語法要説 (橋本進吉 著作集, 第2冊)』 岩波書店.
- (1944) 『文と文節と連文節 橋本進吉 著作集, 第7冊)』 岩波書店.
- 松下厚 (1077) 『日本語文法の体系』 明治書院.
- 明治書院 (1988) 特集「広告のことば」 明治書院『日本語学』 Vol.7 4月号.
- 茂木俊伸 (2000) 「とりたて詞の階層性について」 国語学会秋季大会於 安田女子大学 要旨集, pp.54-61.
- Y.Nitta (2006) Building Carefully Tagged Bi-lingual Corpora to Cope with Linguistic Idiosyncrasy, Proc. LREC'06, 5th International Conference on Language Resources and Environment, Genova, Italy, pp.840-854.
- (2008b) Applying Machine Translation Technology to Language e-Learning, Proc.11th IASTED International Conference on Computers and Advanced Technology in Education (CATE2008) Greek, Crete Island, pp.201-207.
- (2012e) Foreign Language Education Using Classical Transfer-Base Machine Translation Technique, Recent Advances in Computer Science and Information Engineering Vol.3, Springer Verlagpp, pp.443-450.
- (2012f) Functional Treatment of Bilingual Alignment and Its Application to Semantic Processing, Advances in Intelligent and Soft Computing 144, Proceedings of the 2011 2nd International Congress on Computer Applications and Computational Science, 2011 Bali, Indonesia (2011), Springer Verlag, pp.223-229.
- (2012g) Formal Interpretation of HAIKU and Its Application to Communication Interface, Proceedings of. ICSI 2012 (International Conference on Systems and Informatics), Yantai University, China, and IEEE.
- (2012h) Functional Treatment of HAIKU and Its Application to Language Education, Proceedings of the 8th International Conference on Fuzzy Systems and Knowledge Discovery (FSKD 2012) Chongqing, China.
- (2012i) Fragmental Syntax of Haiku and Its Effect in Elementary Language Education, 日本大学経済学部『経済集志』 Vol.82, No.2, pp.21-32.
- (2012j) An Approach to Linguistic Aesthetics by Functional Grammar, Proceedings of 22nd Biennial Congress of The International Association of Empirical AESTHETICS, Taipei (IAEA2012).
- (2012k) Aesthetic Sentence Generation by Functional Grammar, 日本大学経済学部『経済集志』 Vol.82, No.3, pp.9-17.